



## GHS ラベル要素

### シンボル



注意喚起語 : 警告

### 危険有害性情報

H314 重篤な皮膚薬傷・目の損傷

### 注意書き

#### 安全対策

- P 260 ガス／ミスト／蒸気を吸引しないこと。
- P 264 取扱い後は手をよく洗うこと。
- P 270 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- P 280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

### 応急処置

- P 301+330+331 飲み込んだ場合、口をすすぎ無理に吐かせないこと。
- P 312 気分が悪い時は医師に相談すること。
- P 303+330+353 皮膚に付着した場合、汚染された衣服を直ちに脱ぎ水またはシャワーで洗うこと。
- P 363 汚染された衣服を再利用する場合は洗濯すること。
- P 304+340 吸引した場合、空気を新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- P 310 直ちに医師に連絡すること。
- P 321 特別な処置が必要である。(このラベルを見よ)
- P 305+351+338 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄すること。
- P 308+311 暴露か暴露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

## 保管

P 405 施錠して保管すること。

## 廃棄

なし

## 3.組成及び成分情報

物質の特定 単一製品・混合物の区別：混合物製品

成分化学名	CAS No.
直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ナトリウム	25155-30-0
アルキロールアミド	65603-42-9
アルキルアミドプロピルベタイン	61789-40-0
3-メトキシ 3-メチルブタノール	58539-66-3
エチレンジアミン四酢酸ナトリウム	60-00-4
水	7732-18-5

※1 化審法 官報公示整理番号（化審法）	既存
※2 P R T R 法報告物質	非該当
※3 毒物及び劇物取締法	非該当
※4 労働安全衛生法	非該当
有機溶剤中毒予防規制	非該当

## 4.応急措置

### 吸引した場合

- ・吸引して気分が悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない場合は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸に関する症状が出た場合は、医師に連絡すること。
- ・眠気やめまいの症状が出た場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態で休息させる。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人口呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

#### 皮膚に付着した場合

- ・毒性／刺激性はほとんどないが、液が付着した場合は下記のような処置を行う。
- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着した所をよく洗うこと。
- ・衣服などに付着した場合は脱いで、皮膚に付着した部分を石鹼でよく洗うこと。
- ・皮膚刺激又は手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、必要に応じて医師の診断を受けること。

#### 目に入った場合

- ・清浄な水で最低 15 分間目を洗浄する。洗眼の際、瞼を指でよく開いて、眼球・瞼の隅々まで水がよくいきわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・目の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

#### 飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

#### 最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

#### 応急処置する物の保護

- ・特になし

#### 医師に対する特別注意事項

- ・特になし

### 5.火災時の措置

#### 消火剤

- ・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

#### 使ってはならない消火剤

- ・水を消火に用いてはならない。
- ・冷却の目的で霧状水は用いてもよいが、消火に棒状水を用いてはならない。

#### 火災時の特有の危険有害性

- ・燃焼ガスには、一酸化炭素などの他、窒素酸化物系のガスなどの有害ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙を吸入しないように注意する。

#### 特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行う。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺は関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備等の輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

#### 消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク）を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸引を避ける。状況に応じて自給式呼吸具を着用する。

## 6.漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理に行く際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫などの皮膚への付着を防ぎ、粉塵、ガスを吸引しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用機器材を準備する。
- ・こぼれた場合は滑りやすいため注意する。
- ・多量の場合、人を安全に退避させる。

#### 環境に対する注意事項

- ・製品が河川などに排出されないようにする。

#### 回収／中和

- ・少量の場合は、吸着剤（おがくず、土、砂、ウエスなど）で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・有害でなければ、火気、換気などに充分注意して蒸発、拡散させる。又は散水して蒸発を促進させてもよい。
- ・回収後の少量の残留分は土砂、又はおがくずなどに吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

#### 二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
- ・付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消化剤を準備する。
- ・火災を発生しない安全な用具を使用する。

#### 7.取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

##### 技術的対策

- ・使用前に取扱い説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意をよく読み、用途以外に使用しないこと。
- ・アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。

##### 保管

##### 適切な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・酸と一緒に保管してはならない。

##### 安全な容器包装材料

- ・特になし

## 8.ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

- ・蒸気又は煙やミストが発生する場合は、局所排気措置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気措置を設置する。

成分名	管理濃度/ppm	許容濃度/ppm (日本産業衛生学会)	許容濃度/ppm (ACGIH)

※記載の無いものは、知見なし、あるいはデータ無し。

### 保護具

#### 呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、有機溶剤の防毒マスクなどを着用する。

#### 手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋を着用すること。
- ・必要に応じて保護衣、保護前掛けなどを着用する。

#### 目の保護具

- ・保護眼鏡（普通眼鏡型）、必要に応じてゴーグル型、保護面などを着用すること。

## 9.物理的及び科学的性質

外観	: 赤色透明液体
Ph 値	: 7.0～8.0
BRIX	: 19～24
粘度	: —
比重	: 0.99～1.01
溶解性	: 水に対して任意の割合で溶解する

※記載なしは該当せず、又は知見／データなし

## 10.安定性及び反応性

反応性

科学的安定性

- ・通常の取り扱いでは安定である
- ・酸との混合で発熱する。

危険有害反応性の可能性

- ・特になし

避けるべき条件

- ・特になし

混合危険性物質

- ・酸性物質との接触を避けること。(アルカリ性の為)

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

## 11.有害性情報

製品全体としての有害性情報

GHS 分類と同様

個々の成分の有害性情報

メタケイ酸ソーダ

急性毒性	経口	LD50	ラット	1280mg/kg
刺激性	皮膚	アルカリ性を示し皮膚や粘膜を刺激する。		
	眼	アルカリ性を示し皮膚や粘膜を刺激する。		
その他	アルミ、亜鉛、錫、鉛などの金属とは反応し、水素ガスを発生する。			



## 12.環境影響情報

製品全体としての有害性情報

記載のないものは、GHS 分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

個々の成分の有害性情報

記載のないものは、GHS 分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

水生環境急性有害性 : 特に有害影響はない。

水生環境慢性有害性 : 分類できない。

## 13.廃棄上の注意

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

## 14.輸送上の注意

国際規制

国連分類 非該当

国連番号 非該当

国内規制

容器イエローラベル 非該当

積載方法 非該当

混載禁止 非該当

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことを確かめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁、横積み厳禁
- ・ 夏場の輸送時に於いては熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、丁寧に扱う。転倒したり激突させたりしない。

## 15.適用法令

火薬類取締法

対象外

高压ガス保安法

対象外

消防法（ ）内は、指定数量

非危険物

毒物及び劇物取締法（毒劇物取締法）

非該当

労働安全衛生法

非該当

労働安全衛生法（有機溶剤中毒予防規則）

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法

P R T R法：非該当

## 16.その他の情報

参考文献

- ・ GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法、ラベル、作業場内の表示及び安全データシート（SDS） JIS-Z-7253：2012
- ・ 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）改訂 5 版（国際連合文書 2013）
- ・ 経済産業省 GHS 対応 化官法・安衛法におけるラベル表示・SDS 提供制度
- ・ 厚生労働省 有機溶剤中毒予防規制

### ※注意

安全データシートは、危険有害な化学薬品について、安全な取扱いを確保するも為の参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるをお願いします。従って本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。